

第212回 都市懇サロン レポート	『コミュニティデザイン：担い手の育成支援のポイントとは』		
講 師	株式会社計画技術研究所 代表取締役 佐谷和江	開 催 日	平成29年6月20日(火) 18:00~20:00
講 師 プロフィール	株式会社計画技術研究所代表取締役 都市計画コンサルタント協会副会長、日本都市 計画家協会理事、江戸川総合人生大学江戸 川まちづくり学科長、法政大学大学院公共政 策学専攻兼任講師	当日の様 子	
お話の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・講師がこれまで携わってきた主に3地区を事例にご紹介いただき、担い手育成支援のポイントについてお話をいただいた。 (新宿区落合三世代モデル事業) ・子育て応援施設の立ち上げをワークショップ形式などで手がけられた。 (墨田区寺島・玉ノ井地区) ・スカイツリー需要をきっかけに玉ノ井地区の活性化に向けてヒアリング等による担い手の発掘、玉ノ井カフェの開設、アートプロジェクトなどが行われた。 (江戸川総合人生大学) ・地域貢献する担い手育成を目的に江戸川区による社会人向けの学習支援が行われている。卒業後は、社会に貢献するボランティア活動グループがつけられるなど、ユニークな活動が行われている。 <p>[担い手育成支援のポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体の形成と変容→地域に関わる”やる気”になってもらう ・人材発掘→見える化とマッチング (ヒアリング、個々人のネットワークなど) ・組織化、組織運営→そんなに大変じゃないですよと伝える。(組織を階層化し入り口を多様化する。適材適所。) 		
意見交換 の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・玉ノ井カフェの収益は？ → 収益はない。(スタッフ代など) ・不公平感をどう解消していくのか？ → 話し合いの中で解消してもらう。 ・活動費は？ → 継続を考慮して料金設定を行う。補助金は一時金と考える。 ・3事例で地域の方と事前打合せなど、どれ位地区に行ったのか。 → 月に1~2回。資料を作り込まず、当日の会の運営に注力する事が大事。 ・信頼関係のポイントは？ → 顔を認識する。会后、食事会などで相手の特性を掴んだ。 ・ヒアリングの方法は？ → 聞く項目は決めて、相手のつぶやきは逃さない。 ・多世代交流のやり方は？ → 世代が変わるようなイベントがあるとよい。 		
記録者の ひとこと	3事例それぞれの特徴があり、その地域でどのようにコンサルティングすることで、成果がでるのかという所が多彩だった。講師の雰囲気や担い手となる人をぐっと掴む話など引き込まれた。《都市懇サロン運営部会 委員 島津雅充》		